

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年 9月 7日
事業所名	生協あじまの家グループホーム
ユニット名	2階
事業所番号	2370301315
記入者名	職名 看護師、計画作成担当者 氏名 平千草
連絡先電話番号	052-909-4188

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>事業所独自の理念”あ：あんきにくらすふるさとのよう、じ：じんわりほんわかひだまりのよう、ま：まごころあふれるやさしいひとみ、の：のんびりゆったり、い：いつだって、え：えがおがひかるわたしのおうち”</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を廊下の壁に掲示したり、毎日の申し送りで使用する業務日誌にも入れることで共有している。また、カンファレンスの判断基準にあてはめたり、新入職員採用時には理念を伝え、理解してもらうようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>生協利用者の地域の集まりである院所利用委員会には、理念を決定する前に提案し、皆さんの意見を聞いた。家族には、家族会学習会の場で説明しており、ホーム便り「すずらん」の中にも理念を掲示している。地域には、グループホームニュースを作り配布した。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物、喫茶店に出かけた際、隣近所の人に出会ったら気軽にあいさつを交わしている。昨年の夏祭り（盆踊りと花火大会）が隣のうどん屋さんに好評で、それをきっかけに身近な付き合いが始まった。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として町内会に加入している。北医療生協のあじま診療所行事には入居者と共に参加しており、地域の組合員、職員とも交流している。地域の保育園園児が年1～2回遊びに来てくれている。今年8月には、初めて地域の人を対象とした祭り（あじまの家宵まつり）を開催した。約250人の地域の方が参加された。</p>	<p>あじまの家宵まつりをきっかけに、地域との付き合いを深め、小学校の運動会など地域の行事にどんどん参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の組合員を始め、職員や家族を対象とした認知症サポーター養成講座を開催した。「認知症の理解」等の学習会講師依頼がある時には、地域に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は臨時会議で話し合うなど、パート職員を含め全員で取り組んでいる。課題についても全員で話し合い、改善に向けて具体的な取り組みにつなげている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回事業所からの報告と共に、参加者から質問や意見、要望など受けている。評価についても報告し、意見を聞いている。職員の募集や行事（あじまの家宵まつり）などのボランティア参加協力も呼びかけている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年12月の実地指導でアドバイスを受け、ケアプランの取り組みや記録様式の変更に繋がった。また、計画作成担当者の変更届出などで市役所に出向いた際には、担当者に事業所の状況を伝えたり、アドバイスをもらったりしている。必要に応じて電話でも相談したりしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状は管理者が対応しており、職員の教育には至っていない。		職員一人ひとりが、入居者が権利擁護が必要な時があることを学ぶ機会を作る。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は名古屋市の高齢者虐待の研修に参加している。その他のニュースなど、随時報告、通達している。		虐待について学び、虐待行為を発見した場合の対応方法について、周知徹底する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する時は、できる限り生活環境を変えないように引継ぎの時間を十分取るようにしている。		2階3階の職員が同じホーム内で異動があっても、入居者への影響がないよう日常で2階3階の交流を行っていく。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北医療生協独自の新入職員研修（1年目、2年目）があり、教育体制が整っている。外部研修は参加希望者を募るなど、積極的に受講させ、研修内容等は、職員会議で報告し、全職員で共有できるよう取り組んでいる。事業所内でのミニ学習会や同系列他事業所で開催される介護学習会など、学ぶ機会が増えた。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加入している。協議会が開催するもの、事業所独自のもの、労働組合関連などの研修会に参加している。今年6月に行ったお出掛け企画（水族館）では、他事業所の取り組み（計画書）を参考にさせていただくなど交流がある。		他のグループホームへの見学や交流する機会をもっと増やす。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員の情報や疲労など、声を掛け、話しを聞くように心掛けている。連絡が取れるよう連絡先も明記しており、管理者宛に直接連絡が取れるようにしている。職員会議やカンファレンスの場でも話を聞いている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士、ケアマネージャー、ヘルパー資格希望者、その他研修希望については申請してもらい、研修や資格を受けれるよう情報を提供している。職員には、入居者担当制とすることで、毎月のホーム便り「すずらん」の原稿作成や、ケアプランなど、積極的に関わってもらっている。		学習会を定例化し、スキルアップに努めたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時は、必ず本人家族と面接し、面識を持つようにしている。入居後は、生活に慣れるまで、中心に対応できる職員を担当に入れ、情報収集しながら、対応を検討している。入居時の本人の家族の状況は、日々、申し送りで共有している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に家族との面接を持ち、要求に対応できるか否かと、対応方法について説明している。入居後は、電話連絡をいつでも可能にし、状況を伝える。来訪時には面接を持ち、入居の様子と家族の希望を聞いている。面接記録を取り、職員にも伝えるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に家族との面接を持ち、要求に対応できるか否かと、対応方法について説明している。他の事業所の紹介や区役所への相談など家族様の希望に応じてアドバイスをしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族や本人に見学をしていただき、職員と顔なじみになりながら、共同生活をする準備をしている。職員が自宅に面会に行くなど、顔なじみになるよう努力している。見学の時間に他の入居者と交流が持てるよう、お茶の時間に合わせ来て頂くなど工夫している。職員間で情報の共有、申し送りなど細かく把握して、早期に馴染めるよう工夫している。</p>	<p>最近は家族様が、入所決定前に主介護者以外の家族様の見学や、面接を希望されることもあり、可能な限り対応させていただいている</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理が得意な入居者から、作り方を教えてもらいながら調理したり、味見をしていただく、献立に希望を聞くなどしている</p>	<p>毎日の生活の中で、できることは一緒に行ったり、見守りするなどして、共に支えあえる関係を作っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された際には、生活の様子を伝えると共に、家族の様子も気にかけて様子を聞くようにしている。来訪時の記念写真なども撮っている。誕生日やレク、行事に家族の方にも参加してもらっている。		家族学習会を開いているが、家族会に進展できればと考えている
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には、いつでも来訪できるように伝えてあり、来訪時は職員も間に入って、入居者の様子を伝えたり、家族の方との会話ができるようにしている。グループホームでの様子は適時写真に納め、アルバム作成し、家族来訪時に入居者と家族と一緒に見れるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や手紙、電話など、家族の方にも知っていただきながら、対応している。来訪時には職員も関わりながら、馴染みの地名や名前など、昔を懐かしめるように努力している。可能な限り、関係を継続していただくように努めている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者の情報を把握し、入居者間の顔つなぎができるようにしている。一緒に洗濯物をたたんだり、食器を拭くなど、関わりが持てるような場を作っている。最近是谁かが口ずさんだ歌を、入居者皆さんでうたいたす場面もある。		入居者さんは話し相手がほしいと、よく言われる。忘れてもまた紹介して、知り合いになれるようさりげない支援が日常的に支援できるとよう努めたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所から現在に至るまで、自宅へ帰られた方はいない。退所後には、家族には連絡を入れ、現在の話しを聞くようにしている。家族が落ち着くまで、いつでも連絡を受けることができるように伝えてある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は毎日の関わりの中で、入居者の意見を聞くようにしている。勤務開始時には、ひとりひとりに声を掛けて挨拶しており、入居者の表情や顔色などを把握している。センター方式の一部を取り入れ、家族に記入してもらうなど、入居者本人の思いや家族の意向の把握に努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に自宅に訪問し、自宅での生活の様子を本人、家族より聴いている。担当のケアマネジャーも本人家族の了解を得て連絡し、様子を聴くようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個人記録で入居者のバイタル、食事量、睡眠時間、排泄時間を記録にしている。生活リズムを知るようにしている。気になることは申し送りをしている。</p>	
レンスに			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたっては、介護計画に家族の思いや意見を入れることで、家族にも配慮するよう立案、実施している。また、職員間のカンファレンスにて、随時、意見やアイデアを反映させている。</p>	<p>担当スタッフに、本人の意向をつかみ、介護計画に組み入れることを検討している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>年間計画に沿って見直しを行うよう努めている。また、状態の変化などに応じて、随時、職員間でのカンファレンスを実施している。カンファレンスの内容は、何でも連絡ノート等で職員全員に伝えている。</p>	<p>計画変更（見直し）の際、計画書への反映から、家族への連絡、確認までをしっかりと行っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年12月の実地指導を受けて、ケアの実践、支援経過に着目した記録様式に変更した。個人ファイル、個人介護記録を記入しており、職員誰もがいつでも見ることができる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物の1階にデイサービスがあり、行事の見学に出掛けている。雨の日の散歩が難しい時も1階の職員に挨拶をして帰るなどしている。在宅療養支援診療所など、医療連携も取れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域への社会資源の関係を重視しているが、定期的な交流はできていない。地域に向けてボランティアの受け入れ、保育園児との交流を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や思いを読み取りながら、理容サービス、料理作り、掃除ボランティアを受け入れている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただき、関係づくりの基盤ができた。家族会学習会の場に、認知症サポーター養成講座の講師として来ていただいた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人、家族が希望するかかりつけ医で、家族同伴の受診になっている。同伴できない場合には、本人、家族の希望に応じて職員が同伴している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	在宅療養支援診療所の所長が認知症対応されており、定期往診時に内科疾患だけでなく、日常生活が安定しているかについて、カンファレンスができています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師がいる。同じ建物の1階には、訪問看護ステーションもあり、また、在宅支援診療所との協力関係も強化し、支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には看護添書を届けて、連携に努めている。病状説明には、可能な限り、家族と共に聞くように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所内で終末期について学習会を行った。重度化した場合など、退所の条件については、家族に説明し、同意を得ている。その上で、本人、家族の希望を聞きながら、医療とも連携し、対応していく。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の入居者に対しては、在宅支援診療所と連携を図り、定期的に医師から説明を受けながら、常に家族の希望も聞き、家族、職員共に話し合い、対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の添書を添え、馴染みの生活習慣など、本人のこだわり、対応について伝えている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員に、プライバシーの配慮や個人情報の保護守秘義務について説明しており、日々、話し合いができています。排泄支援が多いので、スタッフの声掛けの仕方など、気になるときは、全体申し送り、なんでもノートで意識して対応できるよう指導している		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は日常的な支援の中で、入浴の有無、毎日の体操の有無、飲み物の希望など、本人の希望を聞きだし、取り入れるよう努力している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には、日常的に決まりや都合を優先させた支援にならないよう、指導されている。一人ひとりのリズムやペースに配慮しながら、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		引き続き、職員の都合を優先した支援にならないよう、職員間で連携を取り、支援できるよう努めていく。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望日に近所の床屋に行ったり、家族の希望で美容院に行き、白髪を染めたりしている。特に希望の無い入居者については、月1回、美容師に来訪してもらって対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや芋の皮むき、配膳下膳など、できる範囲で入居者と共に行っている。食事は、職員と入居者が一緒に同じものを食べており、食器拭きはほとんど入居者が行っている。		もっと会話しながら楽しく食事ができるような雰囲気作りを工夫していきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、入居者一人ひとりの嗜好を把握しており、食事やおやつ、飲み物（甘さ加減など）に配慮している。肉が食べられない入居者には、食べれる工夫をしつつ、魚料理にしたりして対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日、排泄の状況、時間を記録しており、把握に努めている。誘導が必要な入居者については、一人ひとりのパターンに合わせて、さりげなく声を掛けてトイレ誘導している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、希望があれば毎日行い、時間も希望に合わせている。入浴は職員と1対1でゆっくり対応でき、話をしたり、歌ったりとくつろげるようにしている。入浴という言葉が拒否される方については、職員間で連携し、清潔が保てるよう脱衣室で、清拭や足浴を支援し、自ら「入ろうかな」といえるように工夫している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日、入眠状況を記録している。ソファでうたた寝をされる方も多い。夜間、なかなか眠れない方には、しばらく付き添って話を聞いたり、ホットミルクを飲んでいただくなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、職員の介入無しで、入居者同士でトランプ（7並べやババ抜き）やゲーム、塗り絵など楽しまれている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や力量に応じて、本人にお金を所持、管理してもらっている。おやつ買いや、喫茶店など支払ってもらっている。残金は家人が訪問時に、点検追加してくださっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が苦手な方が多かったが、昨年より、車椅子などで、喫茶店、収穫、おやつ買いと、外出を楽しめる方がふえた。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車で初詣、花見に桜、こすもす、菖蒲などに出掛けている。行き先は、入居者の希望や意見を取り入れている。家族にも伝えて参加を募っている。今年6月には、家族も一緒に名古屋港水族館へ出かけた。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員室の電話を使って、自分で掛ける方がいる。その他、本人が希望すれば、職員が対応している。年賀状を作成して送った。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問はいつでも可能となっており、家族や友人など、定期的な訪問がある。訪問時には、必ず声掛けとお茶を出し、居間や居室で過ごしていただいている。ひ孫を連れてきてくださる方が増え、他の入居者様とフロアーで過ごしてくださり、人気者になっています		
(4)安心と安全を支える支援				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	<p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>引き続き、家族様との話し合い、カンファレンスを行いながら、対応を検討する</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>入居者様の状況で対応していく</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>報告書記入は、適時している。2月に半期のまとめをしたが、以後できておらず、定期的なまとめと評価をし教訓を全体のものにしていきたい</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>定期的な学習会を継続し、全ての職員が応急手当や急変時対応ができる体制を作っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は、消防署にも協力を得て、非常ベルを鳴らし、緊急電話使用し、避難誘導、避難訓練を見ていただき、指導を受けた。消火設備の使用方法を指導を受けた。消火器は実践訓練を行った。医療生協の理事さんの協力で、緊急連絡網を作成した		定期的な避難訓練を計画、実施すると共に、地域住民にも協力を呼びかけ、日常的に注意してもらえるようお願いする。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒、誤嚥、高齢者に起こりうる急変についての、リスクについては、入居時に説明、また、居室における制限もしないことで、同意をいただいている。気になる方には必ず、家族へ連絡を取り、必要時に受診している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気になる症状があれば、必ず看護師に報告し、早期対応している。毎日体温測定、血圧測定、週に1回の体重測定を行っている。食事量、水分量についても、個人記録に記入し、情報を共有している。月2回の往診時、他科受診時に気になることを伝えている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について一覧表があり、情報を共有している。薬の変更があった場合には、変更理由とその後の状態変化観察項目の指示を受け、申し送り、詳細に記録するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の確認に勤め、排便時間も記入している。水分補給はチェック表を作成し、入居者が意識して水分を取れるよう、個々に対応している。牛乳を飲むなど各自、必要な便秘対策を医師に相談し、対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの促しと見守り、介助が必要な方は職員が誘導、介助している。毎日、就寝前には入れ歯洗浄、保管している。連携している歯科医師より、歯科往診を受け、必要な治療を受けている。往診の際には、歯磨き指導を、利用者とスタッフが一緒に聞きケアに生かしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が毎食の摂取量と1日の水分摂取量を記録、一目でわかるようになっており把握しやすい。水分の少ないかたは申し送り一定の量が取れるよう工夫している。メニューや栄養バランスについては、メニュー委員会で毎月検討、見直しを行っており、栄養士からのアドバイスも受けている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事やおやつ前、トイレ後や外出から戻った時の手洗い、うがいを徹底している。ノロウイルスの手順は作成してあり汚染時はこの基準で対応している。毎年、インフルエンザワクチンを入居者、職員全員が受けるようにしている。帰宅時、手洗い、うがいを徹底している。ペーパータオルを使用している		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板、布巾など、毎日熱湯消毒を行い、衛生管理に努めている。食材については、冷蔵庫の中の在庫を管理、把握すると共に、毎日必要な分だけ発注するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口に手作りの案内を掲示、建物の壁に看板を作成した。また、玄関周りには、季節の花を植えるなどして、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所が居心地の良い空間となるよう、ソファやテーブルの配置など工夫している。全員で座れるソファの配置や、一人で座るイスが置いてある。共用場所の壁には、季節ごとに飾りし、季節感を楽しんでいる。行事などの写真コーナーもあり、入居者にも喜ばれている。		最近、全員がソファに座ってくつろぐことが多くなり、ソファやテレビの配置など、ゆったりできるような工夫が必要になっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとテレビ前のソファは、全員が座れるように配置した。廊下に一人用のいすを設置、居間でうたた寝できる環境にあり、一人でも、全員でもフロアに集えるようになっている。日中は居間で過ごす入居者が多い。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て本人のものとなっており、自宅で使い慣れたタンスなどの家具がある。アルバムなど思い出を飾ったり、家族写真を置くなどして、居心地の良い空間となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚染したオムツはすぐビニール袋に入れ密封するようにして、匂いが広がらないよう工夫している。換気や室温調節は職員が適時行っている。室温については、エアコンの効きすぎなどに注意し、季節感を損ねないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の自立を促すことができるように、トイレや浴室に手すりを設置するなど、環境整備に取り組んでいる。歩行器使用の方が、忘れずに歩行器が使えるように、歩行器の位置や座席の工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室の場所を分かりやすく表示している。居室入口には手作りの表札や、個別の暖簾などで工夫している。また、特に混乱する入居者については、食事の席にも名前を貼るなど対応している。		最近さらに居室や、トイレ、洗面所がわからなくなる方があり、さらに工夫を要する
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の1階にもプランターを置き、花や野菜を植えて楽しんでもらっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフが出勤してくると、入居者一人ひとりに挨拶して 入居者さんと会話をしています。入居者様も、笑顔で挨拶をしてくださいます。10時、15時にはスタッフも手を止めて皆さんと一緒にお茶を頂き、季節や食べ物など何気ない日常会話をかわしています。歌が好きで、皆さんでよく歌います。入居者様が入れ替わっていますが、参加されることが多くいろんな話を聞くことができます。近所に「よしみち畑」と名付けた畑があり、近所の方に教わり、手を加えていただきながら、収穫を楽しんでいます。夏祭り、花見、クリスマス会、初詣、と年間行事が定着し、家族様の参加も多くなってきました。いろんな写真を撮り、アルバムにしている機会に見て楽しんでいきます。何気ない日常生活が、笑顔で過ごせるように、スタッフも支援しています。北医療生協の組合員さんの協力もあり、今年8月地域の皆様に、あじまの家遊にびに来ていただくことができました。